

CITATION: Bellolio MF, Gilmore RM, Ganti L. *Cochrane Database of Systematic Reviews*  
Cochrane Stroke Group, Issue 1. Art. No.: CD005346. DOI:  
10.1002/14651858.CD005346.pub4  
CRG名: Cochrane Stroke Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 2 September 2013  
Clib issue No.; N/U: 2014 Issue 1; Update

## アブストラクト

**背景:** 高血糖で急性脳卒中が生じた人は、脳卒中発生時の血糖値が正常な人よりも死亡率、脳卒中の重症度、機能障害の程度が高い。これは、2011年に初めて発表されたコクラン・レビューの最新情報である。

**目的:** 急性虚血性脳卒中の発症から24時間以内に血糖を特定の正常範囲内(4~7.5 mmol/L)に維持するための集中的なインスリンモニタリングがアウトカムに影響を及ぼすかどうかを明らかにすること。

**検索戦略:** Cochrane Stroke Group Trials Register(2013年9月)、CENTRAL(コクラン・ライブラリ2013年第8号)、MEDLINE(1950年~2013年9月)、EMBASE(1980年~2013年9月)、CINAHL(1982年~2013年9月)、Science Citation Index(1900年~2013年9月)、Web of Science (ISI Web of Knowledge)(1993年~2013年9月)を検索した。また、進行中の試験の登録およびSCOPUSも検索した。

**選択基準:** 急性虚血性脳卒中の成人を対象にインスリン療法の集中的なモニタリングと通常ケアを比較したランダム化比較試験(RCT)。

**データ収集と分析:** 文献検索を通じて、全部で1,565件のタイトルを入手した。2名のレビューアが対象となった論文を個別に選択し、試験の特性、試験の質、アウトカム指標のオッズ比(OR)および95%信頼区間(CI)、平均差(MD)、標準化平均差(SMD)を推定するためのデータを抽出した。意見の相違は協議によって解決した。

**主な結果:** 参加者1,583例(介入群への参加者791例、対照群への参加者792例)が関与する11件のRCTを組み入れた。死亡または要介護(OR 0.99、95% CI 0.79~1.23)、または最終的な神経障害(SMD -0.09、95% CI -0.19~0.01)のアウトカムについて、治療群と対照群間に差異はなかった。症候性低血糖は、介入群で高かった(OR 14.6、95% CI 6.6~32.2)。糖尿病(DM)と非DMを比較するサブグループ分析において、死亡および障害、または神経障害のアウトカムに差異は見出されなかった。死亡および最終的な神経障害のアウトカムについて、治療必要数(NNT)は有意でなかった。症候性低血糖の有害性に対する必要数(NNH)は9例であった。

**レビューアの結論:** 前回のレビュー結果の更新後、急性虚血性脳卒中発症から数時間以内に血糖を特定の範囲内に維持することを目的としたインスリン静脈内投与は、機能アウトカム、死亡、最終的な神経障害の改善の点で利益をもたらさず、低血糖エピソード数を有意に増加させることが確認された。特に、インスリン静脈内投与で血糖値が狭い範囲内に維持された人は、対照群の人よりも症候性および無症候性低血糖のリスクが高かった。

## 平易な要約(Plain language summary)

急性虚血性脳卒中既往患者における高血糖値のインスリンによるコントロール

脳卒中後、血糖値の高い人では年齢、脳卒中の重症度、脳卒中の種類を問わず、死亡率が増加します。インスリンは、血糖値を下げることができます。脳卒中後の至適な血糖値がどのくらいかはわかっていません。本レビューでは脳卒中後の通常ケアと(血糖値を4~7.5 mmol/Lの正常範囲内で維持することを試みた)強化インスリン療法を比較する試験を検索しました。参加者1,583例が関与する11試験を見出しました。脳卒中直後の血糖値を狭い範囲で維持することを試みても、神経障害および要介護のアウトカムは改善しませんでした。しかし、血糖値の顕著な低下(低血糖)が生じる可能性は有意に高まり、これが悪影響を及ぼして脳損傷および死亡を引き起こすことがあります。すべてを考慮すると、これらの試験において、脳卒中後の強化血糖値コントロールの利益は示されませんでした。

(監訳 江川 賢一)

翻訳公開日:2015年3月3日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。